SHADOW KINGS ～pspo2i

RED PEPPER

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＳＨＡＤＯＷ　ＫＩＮＧＳ　～ｐｓｐｏ２ｉ

【Ｎコード】
Ｎ８７３２Ｘ

【作者名】
ＲＥＤ　ＰＥＰＰＥＲ

【あらすじ】
『ＳＥＥＤ事変』より数年後。
資源枯渇問題が深刻になっていくなか、モトゥブでは『ドン・タイラー』が台頭。
無法者どもの巣に完全なる秩序を築き上げていた。
だがその数ヵ月後、その秩序は崩壊する。
かつてモトゥブを支配していた６人の首領たちの一味が独立を宣言。
シマを巡る闘争が始まった。
総裁政府は秩序維持のため、この事実を隠蔽。

同盟軍を用いて鎮圧に乗り出すも、戦線は難航していた…。

（オリジナルキャラ中心です。）

1少女誘拐（前書き）

ある程度原作を知ってないと、意味分からんかもしれません。

原作知っててても意味分からんかも（笑）

1少女誘拐

話をしよう。

モトゥブを支配するローグスのトップ、
アルフォート・タイラー。
この男を知らない人間はいないだろう。

しかし、あまり知られていないが、彼に反旗を翻した者達がいることをご存じだろうか。

かつてモトゥブを支配した6人のローグス達の、跡を継ぐ者として名乗りをあげた猛者たち。

そのなかの一人の名前をアスラン。

彼はまさにローグスだった。
弱い者から絞り取り、強き者にはひれ伏す、器の小さい男だった。

これは、そんな泥臭い男の話だ。
まあ、適当に流してくれていいんじゃないかな。

風に乗って流れてくるのは、灰色の砂と埃と、死の臭い。
ここは、地上の地獄だった。

「この俺が直々に出向いてやったのに、まだ払えねえなんてぬかすのか…？」

最も死人の出る街として有名な、バラスシティ。
その寂れた商店街の一角に、その男はいた。

「これ以上待てねえってんだよ…」

「も、もう少しだけ…」

「今すぐ払えねえってんなら…」
灰色と黒の髪のメッシュが目立つこの男、アスランは、老人に向かってダガーをつきつけた。

「スジ通してもらおうか」

「スジ…？」

「これ、貸してやるからよ」

アスランの口の端が、ゆっくりと持ち上がる。

「指一本落とせ」

「あ、あぁ…」

老人の目から、ぽろぽろ涙がこぼれた。

「ご、ご勘弁を…」

「俺様のダガー、貸してやるって言ってんだぜ？」

弱者が逆らうことなど許されない、男の冷徹な目。

「嬉しくって涙が出るだろ？」

「や、止めてください…。」

「ほら、早くやれよ」

アスランは老人の手を掴むと、それにダガーを押し当てた。

「こうだ、こう。なんなら、やってやろうか？」

「お許しください！中には娘がいるんです…！」

振り上げられた刃に対し、老人はただただ頭を下げるばかりだった。

「へえ、娘かあ」

アスランは彼の頭を掴み、ぐいっと持ち上げる。

「そいつ連れて来いよ」

「は…いえ！そ、それは…」

「連れて来いってんだよお！」

「へえ、カワイイ嬢さんだなあ」
店の奥から外に出てきた少女を見て、アスランは口笛を吹く。
「俺が買ってやるよ。いくらだ？」
真っ赤な赤髪のその少女は、声一つ出さずに小さく震えだした。
「こ、困ります！」
「うるせえ！」
アスランが腕を一振りすると、老人はなすすべなく地面に叩き付けられる。
「おじいちゃん！」
少女の叫び声に応えられず、ただうめき声をあげる老人。
駆け寄ろうとした彼女の体を、彼はあっさり抱えあげた。
「返してほしかったら…」
悲鳴をあげて暴れる彼女をものともせず、アスランは言い放った。
「とっととショバ代を払うこった。今までのツケ全部、耳をそろえてな…」
「は、はなして…！」
停めてあった車に彼女を放り込むと、アスランも運転席に乗り込む。

哀れな老人が顔を上げたころには、なにもかもがなくなった後だった。
「リ、リエラ……！」

「い、いやあ！はなしてぇ！」
もがく少女を抱えたまま部屋に入ったアスランは、彼女をそのままベッドに放りなげた。
「な、何をするの？！」

「あ？…何もしねえよ」
アスランはけだるい目で
少女をいちべつする。

「妙な想像すんじゃねえよ。やらしいな」

「…な、なにを言ってるの！」
からかわれたせいもあり、彼女の顔は真っ赤になった。
「あんな酷いことしておいて！おじいちゃんを…」

「うっせえんだよ。ぐだぐだうるせえと、犯すぞ」

アスランの視線に怯み、少女は口をつぐんだ。

「てめえの大事なもんはてめえで守るのが男だろうが。涙流して責任から逃れようなんざ、ただのクズさ」

アスランは一旦言葉を切ると、少女から視線をそらす。

「俺はクズに優しくする性分は、持ち合わせちゃいないんでね」
呆然としていた少女は、扉が閉まる大きな音に我に帰った。
彼女は自分がくるまっているのが毛布だと分かると、それにすがりついて泣いた。

この街にはかつて、巨大な地下街が存在していた。
彼らアスランとその部下は、その廃墟を根城に警察から身を隠していた。

「連れてきた女の子は誰？」

「借金の担保だよ」

「ふうん…」
錆びついた汚い部屋にはアスランと、キャスケットを被った少年が椅子に座っていた。ちなみに彼の呼び名はキャスケット。見たまんまである。

「どうでもいいけど、ここが軍に気付かれたみたいだよ」

「…なんだと？」

アスランは顔色を変えた。

「軍って、同盟軍か？」
「他に何があんの？」

あっけらかんとしているキャスケットに対し、アスランは滑稽なほどうろたえていた。

「や、やべえぞ…」

「大丈夫だよ」

「何が大丈夫だよ、説明しろ！」

「治外法権って知ってる？」

少年の言葉に、ぴくりとするアスラン。

「例え国際機関でも、他国の政治にはむやみに干渉できないってやつ」

「…知ってるさ」

アスランは鼻を鳴らす。

キャスケットは呆れたように肩をすくめる。

「あんた、やってることはセコいから、国際指名手配はされてないだろ？鎮圧作戦の標的にはならないよ」

「…だが、もしもってこともあるだろう。用心に越したことはねえ」

「あんたは用心しすぎだと思うけどね、さっきの慌てっぷり」

「なんか言ったか、チビ帽子」

拳を握ってゆっくり立ち上がったアスランを見て、キャスケットは

片方の眉をあげて見せる。

「後悔するよ」

「あぁ？」

「知りたいでしょ？ぼくたちを売った裏切り者」

少年の言葉に彼は舌うちし、椅子に座りなおす。

「聞かせろ」

アスランの目には殺気が溢れる。

「そいつには、是非直接お礼がしたいもんだ」

2裏切り

バラスシティの地下には地下街のほかに、かつて国の要人が防空壕に使ったとされる広大なスペースが広がっている。
地下街よりもさらに地中にあるここでは、日夜問わず、金持ち連中が飽く無き死のサーカスに興じていた。

地下闘技場、通称デスパレード。
なんらかの理由で日の当たる場所を歩けなくなったゴロツキどもが殺しあう、趣味のいい見世物だ。

地下数百メートルへと続く採掘用エレベーターに乗り込んで2時間。
アスランは心地よい揺れを楽しんでいた。

「…うぷっ」

喉元までででかかった酸っぱいやつを呑み込み、彼は手すりにもたれたまま舌うちする。

「…ちっ。最高の気分だぜ」

円形の舞台を見上げる形で取り囲むのは、血に飢えた観客たち。
正確には古今東西の有力為政者、貴族、商人、ギャングの幹部など、
その扉は広く開かれている。
顔を見られたくないやんごとなき身分のなかには、仮面をつけている者もいた。
そこから少し離れた特別席のうちの一つに、ある男が座っていた。
名をサーフェイス。
アスランからここを任されている、フェアリーの男だった。
黒のスーツにループタイ、ひょろりとして背が高く、紺色の短髪に
緋色の瞳を持つ、独特の雰囲気な男だ。
アスランは背後に7人ほど部下を連れ、男に大股で歩み寄る。
「やあ、アスラン」

彼に気付くと、サーフェイスは両腕を広げてみせた。

「君の闘技場はよく繁盛してるよ。まあ、いいんじゃないかな」

「そいつは何よりだ」

アスランは無表情にそう言った。
サーフェイスは椅子から立ち上がり、両者は近くない距離で向かい
あって対峙する。
彼は微笑しながら言った。

「何の用かな。君が直接来るとは」

「分かってるはずだぜ、デク野郎」

アスランが指を鳴らすと、背後の部下たちが一斉にハンドガンを構
える。

「ここで殺してもいいが、てめえは見せしめにすることにした。」
アスラン自身も銃を取りだし、片手でサーフェイスに狙いをつける。
「俺を売った罪、死んで償え」
彼の言葉には、一切の酌量の余地がなかった。
にも関わらず、サーフェイスは相変わらず微笑を浮かべたままだ。
「私から君に3つほど、いいことを教えてあげよう」
「…あ？」
アスランの額には筋が浮き出た。
男は余裕の表情で、指を一本立てて見せる。
「まず1つ目。私を連れていくつもりのようだがそいつは無理だ」
「…あんた」
アスランは怒るを通り越して呆れてしまったようだ。
「自分の状況、分かってるのか？」
「2つ目。」
二本目の指が立てられる。
「人の罪というのは、死んでも償えるものじゃない。私はむしろ、君を裏切った罪は一生背負って生きていく所存だ」

「笑えねーな」

「3つ目」

突然アスランは、背後に殺気を感じて振り返る。
そこにはセイバーをふりかぶる、部下たちの姿があった。
銃を持った者たちも、完全にアスランを照準に捉えている。

「人は裏切る。金によってね」

「…！」

キャスケットは一人、アジトである地下街を歩いていた。

「眠い～…」

彼は目をしばたたかせた。
つい一時間前まで仮眠をとっていたのだが、アスランの部下から報告を受けたのだ。
「赤髪の少女が逃げた」と。

「なんで捜索に、僕まで駆り出されなきゃならないんだよ。まったく…」

キャスケットはうんざりした様子で、人気のない通りを歩きまわる。

「だいたいここは広すぎるんだ。道に迷ったら最後、一生出てこられないってのに…」

独り言をグチりながら次の角を曲がったそのとき。

「やあああああああ！！」

けたたましい叫び声とともに、赤髪の少女が襲いかかってきた。

「うわっ！」

頭めがけて振りおろされた鉄パイプを、すんでのところで体を反らしてかわすキャスケット。

「わわっ、ちょ、待っ！」

彼は悲鳴をあげながら、めちゃめちゃに振り回される鉄パイプを避け続ける。

「いい加減に…しろって！」

大振りな少女のスイングの隙をつき、手首を捕まえ、鉄パイプを蹴りあげた。

宙を舞う彼女の得物。

「…は、放して！」

暴れる少女の手首をねじり、地面に押さえ込むキャスケット。

「悪く思わないでね。あいつの命令なんだ」
彼がほっと息をついたとき、彼の背後から人影が現れた。
「…ふざけやがって、このアマ…」
「あ…！」
赤髪の少女がはっと目を見張るのを見て、キャスケットも振り返る。
そこには頭をおさえて立っている、チンピラの姿があった。
彼と同じで、少女探しに駆りだされていたのだろう。
「キャスケット、そいつ抑えてろ。おれが教育してやる…！」
男が近付いてくるのを見て、キャスケットはなにをしようとしてるのかを悟った。
「…！待ってよ！落ち着いて！」
「うるせえ！」
チンピラは興奮し、話の通じる雰囲気ではない。
「殴られた借りは、体で払ってもらうんだよ…！」
しかし、それが叶うことはなかった。
宙を舞っていたパイプが落下し、チンピラの頭に一撃を与えたのだ。
「がっ…！」
白眼を向き、崩れおちる男。

キャスケットと少女は、呆然とそれを見つめるしかなかった。

「……」

そして、全てがしいんと静まりかえった。

「知〜らないっと…」

2裏切り（後書き）

本日はお目通りいただき、誠にありがとうございました。

チンピラ同然のローグスが主人公ですが、不快に思われたかたには大変申し訳なく思います。

気まぐれで書いたものなので、途中でマガハラに消しとんでしまうかもしれません。

予め御了承ください（笑）

基本用語辞典（1）（前書き）

原作未プレイのかたへ参考程度に、用語集を作ってみました。

あまり使えないかもしれません（笑）

基本用語辞典（1）

『総裁政府（総裁府？）』

1．太陽系全ての政府を束ねる国際機関。同盟軍の総指揮決定権を持つ…らしい。
しかし原作では空気！

2．１７９５年１０月、フランスに成立した共和政府。
政権は安定せず、しだいに軍部の発言権が強化され、ナポレオン台頭の引き金となった。

『同盟軍』

なんかメカメカした人たちで構成された軍事組織。

『キャスト』

1．奴隷として造られたが反乱を起こし、種族として独立した、メカメカした人たち。
ガンダムみたいな風体もいれば、ヒトそっくりな方もいる。

2．ドラマなどの出演者。
キムタクって演技上手ですよね。チョットマーテーヨ！

『ローグス』

ならず者の総称。ギャング。

『モトゥブ』

３惑星のうち、最も資源に恵まれた国。
過酷な自然環境に、はびこるチンピラで有名。

『シャブ』

一般的に、麻薬を指す。
精神的快楽や性的興奮の持続など、効果は様々。
よい子は触らないほうが無難。

『ファンタシースターポータブル２インフィニティ』

その恐ろしいほどのキャラクタークリエイトの自由さから、中二、
変態などの猛者が集まるＰＳＰゲームソフト。
インターネットマルチモード対応。
ワイナールの頭の筒っぷりは一見の価値あり。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8732x/

SHADOW KINGS ～pspo2i

2011年10月25日02時02分発行